角川

山田俊雄・吉川泰雄 編

新国語辞典

角川書店

角川 新国語辞典

山田俊雄・吉川泰雄 編

角川書店

昭和五十六年一月二十日　初版発行

角川新国語辞典

編者　山田俊雄
　　吉川泰雄

発行者　角川春樹

整版・印刷者　中内康児
東京都文京区関口一―二四―八

発行所　東京都千代田区富士見二―十三―三　株式会社　角川書店
振替　東京三―一九五二〇八
郵便番号　一〇二
電話　東京(265)七一一一(大代表)

落丁・乱丁本はお取替えいたします

© 製版印刷・暁印刷　製本・宮田製本
0581-011600-0946(0)

あ　ア

「あ」は「安」の草体
「ア」は「阿」の偏

あ【亜】【亞】 音 ア　訓 一　亞　亜

【意味】《体言、漢語要素の上に付いて》①似てはいるが及ばない、それに次ぐ事物である意。「亜聖・亜鉛・亜麻・亜熱帯・亜低木」②元のものに似せているだけでそれより劣る。「亜流文学」③標準の無機酸よりも酸素原子が一個少ない。「亜硫酸・亜砒酸」④もと中国で「亜細亜」、「亜爾然丁」「亜米利加」「亜当」など、外国語の「ア」の音に当てる字。㋐アジア。「亜欧航路」「東亜」㋑アルゼンチン。「亜国」「日亜関係」【表外音訓】つぐ。「聖人に亜つぐ」

あ【阿】 音 ア　訓 おおもねる・くま

【意味】①山などの曲がって入り組んだ所。「山阿」「山の阿」②へりくだってへつらう。「阿世」「阿付・阿諛」③「上役に阿る」④吐く息。「阿吽」④人の名や呼称などの上に付けて親しみを添える語。「阿兄」「阿Q」「阿国」「阿千」⑤もと中国で、外国語の「ア」の音に当て、万葉仮名でも「ア」に当てる字。「阿弥陀」「阿鼻地獄」「阿羅漢」「阿片」「阿波」「阿武隈川」⑥「阿弗利加」の略。【熟字訓】「四阿」（四方に軒の出た寄せ棟造りの建物）

あ【啞】 音 ア　訓 おし

【意味】①声の出ない身体障害。「啞者・聾啞」②驚きや怒りなどのために声が出ないこと。「啞然」③音の出ないもの。「啞鈴」（英 dumb-bell の訳語）

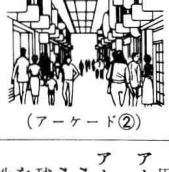
あ 感 ①軽い呼び掛けのことば。「―、ちょっと、きみ」②驚いた時のことば。あっ。「―、いけない」③急に思い出した時のことば。あっ。「―、そうだ」④肯定を表す軽い応答のことば。ああ。「―、そうだよ」

ああ 感 ああ〔嗚呼〕ア 感 驚いたり、悲しんだり、喜んだり、物事に感動した時に自然に出ることば。「―、びっくりした」「―、うれしい」

ああ【ああ〔彼様〕】 ア 副 あのように。「いう（＝アノヨウナ）結果になろうとは」―言う・えばこう言う 言いわけばかりする。へりくつを言う。

アーク アーク 名（英 arc）①弧。弓の形。②光や電気が空間を弓形に飛ぶこと。「―放電」―灯 名 向かい合った二本の炭素棒に電流を通し、ショートさせることによって白色光を出させる電灯。弧灯。

アーケード アーケード 名（英 arcade）①〔建〕西洋建築の大寺院や宮殿、または球場などの外まわりに見られる、丸屋根を持った通路・廊下。拱廊。②歩道または通路に、屋根のようにおおいをつけた商店街。有蓋街路。

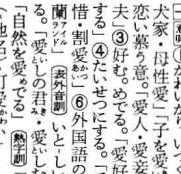

（アーケード②）

アース アース 名・自他サ変（英 earth（地球・大地））①〔電〕電気器械と地面との間に電路をつくり、過大な電流を大地に逃がす装置。また、そのように装置すること。接地。地絡。②（自動車の）車体を電路の一部に利用するため、配線の末端を車体に接続すること。

アーチ アーチ 名（英 arch）①〔建〕迫持。トンネルの天井部のように、半円形にせりあげてつくった構造物。橋げたや門などによく見られる。②歓迎や祝賀のために、杉やヒノキなどの葉でおおい飾った緑の門。③弓形。弧形。④野球で、ホームランの別称。

アーチスト アーチスト 名（英 artist）芸術家。＝アーティスト。アルチスト。対アルチザン。

アーチェリー アーチェリー 名（英 archery）①洋弓。洋弓術。②〔運〕弓技。長弓（＝日本弓）・短弓（＝洋弓）の二種目がある。


（アーチ①）

アート アート 名（英 art）①芸術。美術。②アート紙。―紙 アートシ 名 すべすべしてつやのある厚い印刷用紙。―シアター アートシアター 名（英 art theater）芸術実験映画劇場。芸術映画や前衛・映画（演劇）などを専門に上映する劇場。

アーベント アーベント 名（ディ Abend（夕べ））特別の目的で夕方開く音楽会・映画会など。

アームチェア アームチェア 名（英 armchair）安楽いす。

アーメン アーメン 感（英 amen ヘブライ語 amen（まこと）からきたもので、「真にそうありたい」の意）〔宗〕キリスト教で、祈りの終わりに唱える言葉。

アーモンド アーモンド 名（英 almond）〔植〕バラ科の落葉高木。中央アジア原産。果実は桃に似る。種子の核は食用・薬用。扁桃。―ペースト アーモンドペー。

アール アール 名・助数（フラ are）メートル法の面積の単位。一〇〇平方メートル。約三〇坪。記号 a

アールエッチ・いんし【Rh因子】 アールエッチインシ 名（英 rhesus factor 血液中の凝集原の一種。これを持つ人（Rh陽性）の血球の中の凝集素の一種と共通であるところからRhと命名）（生）赤血球の中の凝集素の一種。これを持つ人（Rh陽性）の血を、持たない人（Rh陰性）に輸血すると危険で、また陰性の母親に陽性の胎児ができると流産・死産する。日本人では陰性の人は二百人に一人という。

アール・ヌーボー アールヌーボー 名（フラ art nouveau（新芸術））建・美）建築・工芸・美術の一様式。二十世紀初頭フランスに起こって流行。自由な曲線を主とし、線や色彩が軽快であるのが特徴。

あい【愛】

教育 音 アイ　訓 ―　愛　愛　愛

【意味】①かわいがり、いつくしむ心（を持つ）。「愛育・愛犬家・母性愛」「子を愛する母」②（おもに異性を）恋い慕う意。「愛人・愛妾・恋愛・性愛」「愛する夫」③好む。めでる。「愛好・愛唱・愛読」「自然を愛する」④たいせつにする。「愛護・自愛」⑤惜しむ。「愛惜・割愛」⑥外国語の「アイ」の音に当てる字。「愛蘭（アイルランド）」【表外音訓】いとしい・いとおしい・まな・めで（＝地名・可愛いい）。「自然を愛めでる」【熟字訓】「愛媛（＝地名）・愛子（＝地名）・愛弟子」

あいアイ 名（英 ai）①恋人。「―の告白」②（心）。「学問への―」

あい【哀】音 アイ　訓 あわれ・あわれむ

一 亡 京 哀

意味 ①かなしい。「哀愁・哀傷・哀話・悲哀」②かわいそうに思う。「哀願・哀訴」表外訓 かなしい・かなしむ。

あい【埃】音 アイ　訓 ほこり

意味 ①ほこり。ちり。また、砂煙。「塵埃」②《中国で「埃及」の略。「埃塞俄比亜」など、外国語の「エ」の音に当てる字。エジプト。「埃及文字」「日埃」関係」

あい【穢】音 アイ・エ(エ)・ワイ　訓 けがれる・けがす・けがれる・けがらわしい

意味 ①きたない。汚穢。「穢土」②悪い。「穢徳」「穢行」

あい【隘】音 アイ・ヤク　訓 せまい・せばい

意味 すきまもない幅が細い。「隘路」「狭隘」「道が隘まい」「前途が隘められている」

あい【あい】「間」アイ 名 ①あいだ。すきま。中間。「一の間」②時間のあきま。ま。③「間狂言」の略。④「合着」の略。

あい【あい】「藍」アイ 名 ①《植》タデ科の一年草。秋に紅色の小花が穂状に咲く。葉・茎から藍色の染料をとる。②→インジゴ。③藍色。

あい【相】(一)アイ 名 ①酒などを飲む相手。②相槌。③仲間。同類。④あいこ。相うち。(二)接頭 ①ともに。いっしょに。「一乗り」②互いに。「一親しい」「一許す」「寄る」③下に動詞を伴って語調を整えることば。多くは、やや改まった言い方に、また文章では候文に用いる。「なり候」「一次いで起こる」

あい・あい【藹藹】アイアイ 形動 ①《文語的》草木が茂っているさま。②なごやかに打ち解けたさま。「和気―」文語 タリ

あいあい・がさ【相合い傘】アイアイガサ 名 一本の傘を二人、特に男女でさすこと。相傘。

アイアンアイアン 名 《英 iron(鉄)》ゴルフの、鉄頭のクラブ。対 ウッド。

あい・いく【愛育】アイイク 名・他サ変 かわいがって育てること。

あい・いれない【あいいれない】「相・容れない」(意見などが)互いに一致しない。矛盾し合う。

あい・いろ【あい色】「藍色」アイイロ 名 紺と青との中間色。濃い青色。

あい・いん【合印】アイイン 名 二つ以上の帳簿や書類が合っているしるしに押す印。あいじるし。

あい・いん【愛飲】アイイン 名・他サ変 特に好んで飲むこと。「一家」「地酒を―する」

あい・うち【相打ち】撃・撃・討】アイウチ 名 ①剣道などで)互いに同時に相手を打ち込むこと。②引き分け。あいこ。

あい・えん【合縁・縁】アイエン 名 互いによく和合する縁。―奇縁 **縁**アイエンキエン 名 人の交わりは不思議な縁によって、気心の合う合わないがあるということ。「一家」

あい・えん【愛煙】アイエン 名・他サ変 たばこが好きなこと。「一家」

あい・おい【相生】アイオイ 名 ①いっしょに生まれること。いっしょに生長すること。②相老い。―の松 根がからみ合い、一つの根から分かれ生えたように見える二本の松。また、その老樹。→あいおい(相老い)。

あい・おい【相老い】アイオイ 名 夫婦がそろって長生きすること。

あい・か【哀歌】アイカ 名 悲しい心持ちをうたった歌。エレジー。「ほかのかぎ。

あい・かぎ【合い鍵】アイカギ 名 その錠に合うふに合わせる鳴り物。

あい・かた【合方】アイカタ 名 ①芝居で、役者のせりふに合わせる鳴り物。②能楽のうたいの囃子。→方。

あい・かた【相方】アイカタ 名 ①相手。②(敵娼)客の相手の遊女。

あい・がも【あいがも】「間・鴨・合・鴨」アイガモ 名 ①《動》野生のマガモとアオクビヒルとの雑種。肉は食用。②(鳥肉屋で)アヒルの肉の異称。

あい・かわらず【相変(・)わらず】アイカワラズ 副 いつものとおり。以前と同様。

あい・かん【哀感】アイカン 名 もの悲しい感じ。「一が漂う」

あい・かん【哀歓・歓】アイカン 名 《文語的》悲しみと喜び。「人生の―」「交々至る」

あい・がん【哀願】アイガン 名・他サ変 事情を嘆き訴えて願うこと。同 嘆願。

あい・がん【愛玩】アイガン 名・他サ変 (小動物などをたいせつにし、かわいがること。「一動物」

あい・ぎ【愛機】アイキ 名 愛用する飛行機・写真機など。

あい・ぎ【合着】「間着」アイギ 名 ①上着と下着との間に着る衣服 ②春・秋に着る衣服。合服。あい。

あい・ぎょう【合気・氣・道】アイキドー 名 素手または短刀・刀・棒などでする護身術の一。

あい・きゃく【相客】アイキャク 名 同席または同宿の客。

あい・きょう【愛・敬】愛・嬌】アイキョー 名 ①好もしいかわいらしさ。にこやかでかわいらしいこと。「がない人」②愛想。人受けのよいようなふるまいや表情。「をふりまく」③興を添える物事。「とんだお―だ」④「と。「一心」

あい・きょう【愛郷(郷)】アイキョー 名 郷土を愛すること。

あい・きょうげん【間狂言】アイキョーゲン 名 (演)能の上演で、狂言師が分担する部分。普通、前シテの退場のち、後シテの姿で登場する間、狂言方が出て演じる。

あい・ぎん【愛吟】アイギン 名・他サ変 好んで詩歌をうたうこと。「一」。

あい・くち【あいくち・合口】アイクチ 名 ①物と物との合わせ目。②相性。「―がいい」③(匕首(鯉口にかがびったり合うところから)鍔のない短刀。九寸五分ほど。

あい・くるしい【愛くるしい】アイクルシイ 形 たいへんかわいらしい。文語 **あいくる・しシク**

あい・けい【愛敬】アイケイ 名・他サ変 愛し敬うこと。敬愛。

あい・けん【愛犬】アイケン 名 犬をかわいがること。また、かわいがっている犬。「一家」

あい・こ【あいこ・相子】アイコ 名 互いに勝ち負けがないこと。相持ち。

あい・こ【愛顧】アイコ 名・他サ変 (客が商人や芸人などを)かわいがり、引き立てること。ひいき。

あい・ご【相碁】アイゴ 名 囲碁で、腕前が互いに同じであること。

あい・ご【愛護】アイゴ 名・他サ変 たいせつにしてかわいがり守ること。「動物―」

あい・ごう【愛好】アイコー 名・他サ変 趣味的に愛し好む

あい・ごう【愛校】アイコー 名 自分の学校を愛すること。

あい・ごう【哀号・号】アイゴー 名・自サ変 ①《文語的》人の死を悲しみ、泣き叫ぶこと。哀哭。②(中国・朝鮮で)葬式の時に泣き叫ぶことことばの。

あい・こく【愛国(國)】アイコク 名 国を愛すること。「一者」

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

あい・ことば【合い言葉】アイコトバ 名 ①味方同士が確認し合うため、前もって打ち合わせてある合図のことば。「—は山、川」②目的をとげるため、または人の気持ちを高揚するための標語。「暴力追放の—」

あい・ごま【合い・ごま】「間・駒」アイマ 名 将棋で、相手の攻撃を防ぐため、相手の駒と自分の駒の間に打つ駒あい。間遮。

あい・さい【愛妻】アイイ 名 妻を愛し、たいせつにすること。また、愛している妻。「—家」「—弁当」

あい・さつ【あいさつ】「挨・拶」アイサツ 名・自サ変 ①人と会った時、別れる時に儀礼的なことばや動作を交わすこと。また、そのことばや動作。「—抜き」②通知・報告や感謝にかかわる儀礼的な表明。また、そのことば。「社長の就任に—「状」」③受け答え。応答。「—にも困る」④→ごあいさつ。

あい・し【哀史】アイシ 名 ①文語的 悲しい歴史。また、あわれな物語。「女工—」

あい・し【哀詩】アイシ 名 ①文語的 悲しい心持ちをうたった詩。エレジー。哀歌。悲歌。

あい・じ【愛児(兒)】アイジ 名 かわいがっている子供。とらわれて思い切れないこと。②→あいちゃく。

アイ・シャドー アイシャドー 名 (英 eye shadow) 目に陰影をつけるために、まぶたに塗る青・黒・茶色などの化粧品。

あい・しゅう【哀愁】アイシュー 名 もの悲しい思い。

あい・しゅう【愛執】アイシュー 名 愛情にひかれて思い切れないこと。同 愛着あいち。

あい・しょ【愛書】アイショ 名 ①書物を好み、だいじにすること。「—家」②たいせつにしている書物。愛読書。

あい・しょう【相性・合性】アイショー 名 ①男女の生年月日が陰陽五行説に当てはまり、性質が合うこと。②互いの性質や傾向の合いがあい。「—が悪い」

あい・しょう【哀傷】アイショー 名・他サ変 悲しみ悼むこと。同 哀悼。—歌 アイショーカ 名 人の死を悼む歌。挽歌ばんか。

あい・しょう【愛称(稱)】アイショー 名 本名のほかにつけた、親しみをこめて呼ぶ名。ペット・ネーム。

あい・しょう【愛唱】アイショー 名・他サ変 好んでうたうこと。「歌」

あい・しょう【愛・妾】アイショー 名 かわいがっているめかけ。「と。」読み言葉。

あい・しょう【愛・誦】アイショー 名・他サ変 好んで口ずさむこと。「娘。まなむすめ。

あい・じょう【愛情】アイジョー 名 ①愛し、いつくしむ心。②恋い慕う心。かわいがっていること。

あい・じょう【愛嬢(孃)】アイジョー 名

あい・じょう【合印】アイジルシ 名 ①他の物と区別されないように継ぎ目につけるしるし。②転場で敵方と区別するために味方がつけるしるし。③→あいいん。愛する人。恋人。

あい・じん【愛人】アイジン 名

あい・す【愛す】アイス 他五サ変 →あいする。文語 サ変

アイス アイス 名 (英 ice 氷) ①「アイス・クリーム」「アイス・キャンデー」の略。②冷たいコーヒー、またはミルクの略。(対ホット。)—キャンデー アイスキャンデー 名 (英 ice candy)〔和製語〕〔季・夏〕果汁などを凍らせた菓子。—クリーム アイスクリーム 名 (英 ice cream)〔季・夏〕牛乳・砂糖・卵黄を混ぜてつくる氷菓子。—クリーム・サンデー アイスクリームサンデー 名 (英 ice-cream sundae) アイスクリームにチョコレート・クリーム・果汁などをかけた氷菓子。—クリーム・パフェ アイスクリームパフェ 名 (英 ice-cream parfait) アイスクリームと生クリームを盛り合わせ、甘く煮た果実で飾りつけた氷菓子。—コーヒー アイスコーヒー 名 (英 ice coffee) 氷片を浮かべた冷たいコーヒー。(対ホット・コーヒー。)—スケート アイススケート 名 (英 ice skating)〔季・冬〕〔運〕スケートで氷上を滑ること。また、その競技。単にスケートとも。(対ローラー・スケート。)—ティー アイスティー 名 (英 ice tea) 冷たい紅茶。—フォール アイスフォール 名 (英 icefall (氷の滝)) 氷河の急傾斜の部分が、くずれた氷塊や無数の割れ目で滝のようになった場所。—ボックス アイスボックス 名 (英 icebox) 冷蔵庫。—ホッケー アイスホッケー 名 (英 ice hockey)〔季・冬〕〔運〕六人ずつ二組みに分かれて氷上で行うホッケー。

あい・ず【合図(圖)】アイズ 名・自サ変 前もって定めた方法で物事を知らせること。また、その方法。サイン。

アイスバーン アイスバーン 名 (ドイ Eisbahn (スケート場)) 凍りついた雪面・路面。

あい・すまない【相済(濟)まない】アイスマナイ 「「済まない」の改まった言い方。

アイスランド アイスランド 名 (Iceland) 大西洋北部の共和国。首都レイキャビク。

あい・する【愛する】アイスル 他サ変 ①(人や生き物を)いつくしむ。かわいがる。親しがる。「子を—する」「民衆の—する指導者」②(異性を)恋い慕う。「!」する青年」③(物事を)好ましくたいせつに思う。だいじがる。「国を—する」文語 あい・す。「書物を—する」④強く好む。「酒を—する」文語 あい・す サ変

あい・せき【相席・合席】アイセキ 名 (飲食店などで)前からいる客のテーブルの、あいている席につくこと。

あい・せき【哀惜】アイセキ 名・他サ変 人の死などを悲しみ惜しむこと。「の情」

あい・せき【愛惜】アイセキ 名・他サ変 惜しんでたいせつにすること。—あいじゃく。

あい・せつ【哀切】アイセツ 名・形動タ 〔文語的〕非常にあわれなこと。非常に悲しいこと。「—なメロディー」

あい・せん【相先】アイセン 名 囲碁や将棋で、互いに先番となること。同 互い先。

あい・せん【愛染】アイセン 名 〔仏〕①愛に執着することの。煩悩。②(「愛染明王」の略)愛着の煩悩を清める神。

アイゼン アイゼン 名 (ドイ Steigeisen) 登山ぐつの下につける滑り止めの金具。鉄かんじき。クランポン。

(アイゼン)

あい・そ【哀訴】アイソ 名・自他サ変 事情を述べて嘆き訴えること。同 愁訴。

あい・そ【愛想】アイソ 名 →あいそう。—づ(尽)かし アイソづかし 名 いやになって見捨てること。

あい・そう【愛想】アイソー 名 ①人当たりがよいこと。かわいらしいこと。おいきょう。「をふりまく」②もてなし。「なんのお—もありませんで」③親しみ。好意。「—もこそも尽き果てる」④→おあいそう。=あいそ。—が尽きる すっかりきらいになる。

あい・ぞう【愛憎(憎)】アイゾー 名 愛することと憎むこと。

あい・ぞう【愛蔵(藏)】アイゾー 名・他サ変 だいじにして所蔵すること。「—書」—版」

あい・そく【愛息】アイソク 名 かわいがっている息子。

アイソトープ アイソトープ 名 (英 isotope)〔理〕同位元素。原子番号が等しく、原子量の異なる元素。たとえば水素と重水素など。「ラジオ—」=アイソトープ。

あい・そん【愛孫】アイソン 名 かわいがっている孫。

あい・だ【間】アイダ (ノ)名 ①物と物とにはさまれた部分・範

囲。合い間。「柱と柱の―」②隔たり。距離。「―をあける」③関係。仲。「親子―」④限られたひとつ続きの時間。「食事を―する」⑤中間。「―をとる」〔形式名〕候文で、「ゆえに」から「の意。致し候」―**がら**【柄】アイガラ 名 続き合い。関係。―**食い**アイクイ 名 定まった食事時間の間に菓子などを食べること。かんしょく。

あい・たい【相対(對)】アイタイ 名 ①二人が向かい合って事をすること。②対等で事をなすこと。―**ず**(尽)**く**アイズク 名 相手と相談のうえでのこと。納得ずく。

あい・たい・する【相対(對)する】アイタイスル 自サ変 ①向かい合う。②互いに反対の立場に立つ。

あいた・しゅぎ【愛他主義】アイタシュギ 名 〔哲〕他人の幸福・利益を理想・目的とする主義。〔同〕利他主義。〔対〕排他主義。

あい・ちゃく【愛着】アイチャク 名 愛情にひかれて思い切れない気持ち。〔同〕愛執。―は―にあいじゃく。

あい・ちょう【哀調】アイチョー 名 もの悲しい調子。「―を帯びる」

あい・ちょう【愛鳥】アイチョー 名 〔特に野生の鳥をかわいがること。「―週間」―精神」

あい・つ【あいつ〔彼奴〕】アイツ 代 〔俗〕〔あやつの転〕①他称 けいべつ、または親しみをこめて第三者の人をさすことば。あのやつ。やつ。「かわいい―」②遠称 遠くのもの、または話し手・聞き手のどちらにも知っていてあるものをさすことば。あれ。あそこのもの。例のもの。「―を持って来てくれ」

あい・つ・ぐ【相次(継)ぐ】アイツグ 自五 あとからあとから続く。「―いで生じる」〔文語〕四

あい・づち【相づち〔合・槌〕】アイヅチ 名 ①鍛冶で、向かい合って交互に槌を打つこと。②相手の話に賛同して調子を合わせること。「―を打つ」

あい・て【相手】アイテ 名 ①物事をする時、対象になる人。先方。「結婚の―」―かわれと主はかわらず」②物事をいっしょにする人。仲間。「遊び―」③勝負などの敵手。―**方**アイテカタ 名 ①相手の人。②〔法〕法律行為の当事者の一方の人。―**次第**アイテシダイ 名 相手の人物やその出方によって、自分の態度を決めること。

アイデア アイデア 名 〔英 idea〕①考え。案。②〔特に新奇な〕着想・発案。思いつき。「いいだ」③〔文〕構想。着想。④〔哲〕→かんねん・りねん。―アイディア。

アイディアル アイディアル 形動ダナ・ダナラ・ダニ・デ 〔英 ideal〕理想的・典型的。

あい・でし【相弟子】アイデシ 名 同じ先生について、ともに学ぶ者。兄弟でし。同門。

あいて・ど・る【相手取る】アイテドル 他五 争いの相手とする。「会社を―って訴える」〔文語〕四

あい・とう【哀悼】アイトー 名・他サ変 人の死を悲しみ悼むこと。〔同〕哀傷・哀惜。

あい・どく【愛読・讀】アイドク 名・他サ変 好んで読むこと。「―書」

あい・ともに【相共に】アイトモニ 副 〔ともに〕を強めた言い方〕いっしょに。

アイドリング アイドリング 名 〔英 idling〕①〔機〕遊転。から回り。②〔特に自動車〕エンジンの遊転。

アイドル アイドル 名 〔英 idol〕偶像。崇拝されている、または あこがれの対象とされている人〔もの〕。「子供の―」

あい・なかば・する【相半ばする】アイナカバスル 自サ変 ①どちらも同じくらいである。五分五分である。②功罪―する」〔文語〕サ変 **あひなかば・す** サ変

あい・なめ【あいなめ〔鮎魚女・鮎並〔竝〕〕】アイナメ 名 〔季・夏〕〔動〕アイナメ科の浅海魚。体長約三〇センチで、緑がかった褐色。食用。〔同〕あぶらめ。

あい・な・る【相成る】アイナル 自五 「成る」の改まった言い方。〔文語〕四

あい・にく【あいにく〔生憎〔憎〕〕】アイニク 副・形動ダ おりが悪いさま。都合が悪いさま。「―留守だった」―な雨」

アイヌ アイヌ 名 〔英 Ainu〕アイヌ語で「人」の意。北海道・サハリンなどに住む一種族。―**犬**アイヌケン 名 〔動〕北海道産の中形犬。胴が太く、骨格もしっかりしている。北海道犬。

あい・の・こ【合(ひ)の子】アイノコ 名 ①異種のもの同士の間の子。混血児。ハーフ。②異なった種類の両方の性質を持ち、どちらともつかない中間のもののたとえ。

あい・の・て【合(ひ)の手】アイノテ 名 ①間の手。歌との間に入れる、三味線などの音曲。②会話などの間に、調子を整えたり勢いをつけたりするためにはさむことば。

あい・の・り【相乗(乗)り】アイノリ 名・自サ変 同じ車などにいっしょに乗ること。「タクシーに―する」

あい・ば【愛馬】アイバ 名 馬をかわいがること。また、かわいがっている馬。―**精神**」

あい・ばん【合判・相判】アイバン 名 紙の寸法の一。縦約二一センチ、横約一五センチ。普通のノートの大きさ。また、写真乾板で縦約一二センチ、横約一〇センチのもの。

アイ・バンク アイバンク 名 〔英 eye bank〕眼球銀行。死後、角膜を目の見えない人に譲るために予約登録する制度・機関。角膜移植法」によって運営される。

アイビー・スタイル アイビースタイル 名 〔英 ivy+style〕アメリカのアイビーリーグに属する大学の学生の流行から〔和製語〕青年向きの服装の型。直線的外観を持ち、上着は三つボタンでズボンは細い。アイビー・ルック。

アイビー・リーグ アイビーリーグ 名 〔英 Ivy League〕〔ivy〔ツタカズラ〕は名門大学の象徴〕アメリカ東部の大学フットボールのリーグの名。ハーバードやエールなどの名門校が入っていることで知られる。

アイビー・ルック アイビールック 名 〔英 ivy+look〕〔和製語〕―アイビー・スタイル。

あい・びき【あいびき〔逢引・媾・曳〕】アイビキ 名・自サ変 男女が人目を忍んで会うこと。しのびあい。

あい・びき【合いびき〔合・挽〕】アイビキ 名 二種類以上〔特に牛・豚〕の肉を合わせひいたもの。

あい・ぶ【愛・撫】アイブ 名・他サ変 なでさすって、かわいがること。また、なでさすらんばかりにかわいがること。

あい・ふく【合服】アイフク 名 ①品物を預けたしるしに渡す札。②割り符に使う札。

あい・べつ【哀別】アイベツ 名 〔文語的〕①悲しい別れ。②自サ変 別れを悲しむこと。

あい・べつり・く【愛別離苦】アイベツリク 名 〔仏〕八苦の一。「まなこと。

あい・べや【相部屋】アイベヤ 名 〔宿などで〕同じ部屋に泊

あい・ぼ【愛慕】アイボ 名・他サ変 愛し慕うこと。

あい・ぼう【相棒】アイボー 名 〔いっしょに駕籠をかつぐ相手の意から〕いっしょに物事をする仲間。

アイボリー アイボリー 名 〔英 ivory〔ぞうげ〕〕〔アイボリー・ペーパー・〔アイボリー・ホワイト〕の略。―**ペーパー** アイボリーペーパー 名 〔英 ivory paper〕ぞうげ色で上質、厚手の西洋紙。略して〔アイボリー〕。―**ホワイト** アイボリーホワイト 名 〔英 ivory white〕ぞうげのような白。ぞうげ色。略して、「アイボリー」。

あい・ま【合間】アイマ 名 あいだ。ひま。あい。「仕事の—」

あい・まい【曖・昧】アイマイ 形動ダナリ・ダデ・ニ・ナ・ナラ・ナル・ナレ・ナロ ①はっきりしないさま。「—な態度」同あやふや。②いかがわしいさま。文語ナリ ー模・糊アイマイモコ 形動タリ きっぱりせず、ぼんやりしているさま。ー屋アイマイヤ 名 売春婦をかかえている宿。

あい・まって【あいまって】相・俟って 相互の力が合わさって。互いの力に助けられて。「両々ー」

あいみ・たがい【相身互い】アイミタガイ 名 互いに同情し、助け合うような間柄。「武士はー」

アイモ アイモ 名 〔Eyemo〕商標名。携帯用の三十五ミリ映画撮影機。アメリカのベル・アンド・ウエル社製。

あい・もち【相持ち】アイモチ 名 ①かわり合って持つこと。いっしょに持つこと。②費用を平等に負担すること。割り勘。③→あいこ(相子)。

あい・やく【相役】アイヤク 名 自分と同じ役目(の人)。同役。

あい・やど【相宿】アイヤド 名 同じ宿に泊まり合わせること。同宿。

あい・よう【愛用】アイヨー 名・他サ変 好んで使うこと。使いつけていること。

あい・よく【愛欲・愛慾】アイヨク 名 ①〔仏〕愛着の心にとらわれること。②異性に対する強い性愛の欲望。情欲。

あい・よつ【相四つ】アイヨツ 名 相撲で、得意の差し手が互いに同じであること。「右の—」対けんか四つ。

アイライン アイライン 名 〔英 eyeline〕目ばりの目を大きく見せるために、上下のまつ毛に沿ってまゆ墨で入れる線。

あい・らし・い【愛らしい】アイラシイ 形イイ・イイ・イク・ケレ・カロ かわいらしい。文語あいら・しシク

アイリス アイリス 名 〔英 iris〕ギリシャ神話の「虹の女神」から。①〔季・夏〕〔植〕アヤメ科アヤメ属の植物の総称。栽培種をさすこと多い。②ドイツアヤメ・オランダアヤメ・イギリスアヤメなどの称。

アイルランド【アイルランド【愛蘭】】アイルランド 名 〔Ireland〕①島の名。イギリス本国のグレート・ブリテン島の西にあり、英領北部アイルランドとアイルランド共和国に分かれている。②アイルランド島の大部分を占める共和国。もと、エール共和国。首都ダブリン。

あい・れん【哀・憐】アイレン 名 〔文語的〕あわれみ。

あい・ろ【隘路】アイロ 名 ①狭く険しい道。越えにくい困難な道。②物事をなしとげるうえでの妨げのたとえ。障害。支障。ネック。

アイロニー アイロニー 名 〔英 irony〕①反語。法。②皮肉。風刺。同イロニー。

アイロン アイロン 名 〔英 iron〕①衣類のしわを延ばしたり、折り目をつけたりするのに使う鉄製のこて。火のし。②頭髪を縮らせること。

あい・わ【哀話】アイワ 名 悲しい物語。悲話。

あ・う【合う】アウ 自五ワ・オ・イ・ウ・エ・エ ①一つになる。②調和する。かなう。「服がーう」③基準に一致する。「答えがー」「④当てはまる。「型にーう」⑤引き合う。損にならない。「この仕事はーわない」⑥〔動詞の連用形に付いて〕互いにする意味を表す。慰めーう。文語ハ四

あ・う【会〈會〉う】アウ 自五ワ・オ・イ・ウ・エ・エ ①面会する。対面する。「先生にーう」②【逢う】男女が契りを結ぶ。文語四 ー・うは別れの始め 会ったということは、必ず別れる時があるということだ。人生は無常だ、の意。

あ・う【遭う】アウ 自五ワ・オ・イ・ウ・エ・エ 災難などに出くわす。「盗難にーう」文語ハ四

アヴァンギャルド →アバンギャルド。

アヴァンゲール →アバンゲール。

アヴァンチュール →アバンチュール。

アヴェック →アベック。

アヴェニュー →アベニュー。

アヴェマリア →アベマリア。

アウタキー アウタキー 名 〔ポイ Autarkie〕自給自足経済。

アウト アウト 名 〔英 out〕①〔テニス・卓球などで〕ボールが規定線の外に出ること。②〔野球で〕打者・走者がその権利を失うこと。対セーフ。③〔ゴルフで〕前半の9ホール。対イン。ーウェア アウトウエア 名 〔英 out+wear〕〔和製語〕上着類の総称。スーツ、コート、セーター、カーディガンなど。ーカーブ アウトカーブ 名 〔英 outcurve〕〔野球で〕アウトコーナーに来るカーブ。対インカーブ。ーコース アウトコース 名 〔英 out+course〕〔和製語〕①陸上競技で、フィールドに対して外側の走路。②野球で、投球が打者に遠い方を通る道。対インコース。ーコーナー アウトコーナー 名 〔英 outcorner〕野球で、ホーム・ベースの、打者に遠い方の側。外角。対イン・コーナー。ーサイダー アウトサイダー 名 〔英 outsider〕①局外者。②常識のわくからはみ出している独特の思想・行動の持ち主。③〔経〕カルテル・トラストその他の価格協定に参加しない同業者。ーサイド アウトサイド 名 〔英 outside〕①外側。外面。②野球で、アウトコーナー。ーシュート アウトシュート 名 〔英 outshoot〕野球で、ホームベースの外側へ自然に流れる投球。対インシュート。ープット アウトプット 名 〔英 output〕①〔工〕出力。②〔経〕産出・額。③電算機で、処理された情報を、ことばまたは記号として出力装置から取り出すこと。対インプット。ーライン アウトライン 名 〔英 outline〕①外郭線。②輪郭。大要。あらまし。ーロー アウトロー 名 〔英 outlaw〕無法者。反逆者。

アウフヘーベン アウフヘーベン 名・他サ変 〔ドイ Aufheben〕→しょう(止揚)。

あ・うん【阿・吽・阿・吽】アウン 名 〔梵字の最初の字と最後の字「ウン」〕①あらゆる現象の始めと終わり。「アと」と最後の字「ウン」〕②呼吸が合う。③対になった仁王の口の形で、一方は開き、他方は閉じたもの。

あえか【形動】アエカ ダナリ・ダデ・ニ・ナ・ナラ・ナル・ナレ・ナロ よわよわしいさまはかなさま。文語ナリ

あえ・ぐ【あえぐ】アエグ 自五ガ・ギ・グ・ゲ・ゲ 「喘ぐ」の呼吸が合う。息をせわしく呼吸する。息を切らす。②苦しむ。「不景気にーぐ」文語四

あえ・ず【あえず】アエズ 〔文語的〕①完全にはできないで。「取るものも取りーに」②こらえきれずに。「涙せきーに」

あえ・て【あえて】アエテ 副 ①進んで。押し切って。強いて。「出発する」②〔下に打消の語を伴って〕必ずしもいっこうに。「驚くには及ばない」

あえ・ない【あえない】アエナイ 形 ①最期。文語ハ四

あへな・し ク

あえ・もの【あえ物】アエモノ 名 野菜・魚・貝などを、みそ・ごま・酢・からしなどであえて調理した食品。

あ・える【あえる】アエル 他下一エ・エ・エル・エル・エレ・エレ・エロ

あえ・る【和(ま)える】アエル 他下一エ・エ・エル・エル・エレ・エレ・エロ みそ・ごま・酢などで混ぜ合わせて調理する。文語あ・ふ ハ下二

あえん【亜(亞)鉛】アエン 名 〔理〕金属元素の一。記号Zn 原子番号30 原子量65.37 つやがあり、もろい金属で、鉄器の亜鉛びきなどに使う。ー華 アエンカ 名 〔理〕酸化亜鉛の白色粉末。白色顔料・化粧品・医薬用。ー澱粉 ー板 エンパン 名 鉄板に亜鉛の薄い膜をかぶせたもの。トタン板。

あお【青】㊀アオ 名 ①三原色の一。快晴の空のような色。②緑色。水色など青系統の色をいうことば。「海の一」③「青信号」の略。「一になったら歩き出せ」 対 赤。④つやのある黒い馬（の毛並み）。また、一般に馬の名として。「一ばえ。「一ばえ、いなげ」 ㊁ 接頭 ①若い。「一女房」②（年が若く）未熟な。「一二才」 **―は、藍より出でて藍よりも青し** 弟子が師よりもすぐれていることのたとえ。出藍。

あお・あお(・と)【青青(と)】アオアオ(ト) 副 鮮やかに青え。

あお・あらし【青あらし】「青・嵐」アオアラシ 名 [文語的] 〔季・夏〕青葉のころ吹くさわやかな風。ぜいらん。

あおい【あおい】「葵」アオイ 名 ①〔季・夏〕〔植〕アオイ科の植物の総称。②フタバアオイの別称。③紋所の名。徳川家の三つ葉葵が有名。転じて、江戸幕府の象徴。―祭 アオイマツリ 名 〔季・夏〕→かもまつり。

あお・い【青い】「蒼い」アオイ 形 カク・カク・ク ①青色、または緑色をしている。「若葉が一・い」②未熟である。「まだ一・い考え方」③顔に血の気がない。青ざめている。「一・い顔」 文語 **あを・しク**

あお・いき【青息】アオイキ 名 嘆き、苦しんで出す息。―吐息 アオイキ 名 ひどく困り、苦しんで吐くため息。また、ひどく困り苦しんでいる状態。

あおい・とり【青・鳥】アオイトリ 名 《ベルギーの詩人メーテルリンク作の戯曲の名から》幸福の象徴。

あおいろ・しんぐ【青色申告】アオイロシンコク 名 青色の定められた用紙に書いて出す所得税の申告。おもに事業所得の場合に使う。

あお・うなばら【青海原】アオウナバラ 名 あおあおとした広い海。

あお・うみがめ【あおうみがめ】「青海・亀」アオウミガメ 名 〔動〕ウミガメ科の海産の大ガメ。小笠原・台湾近海産。食用。▽しょうがくぼう。

あお・うめ【青梅】アオウメ 名 〔季・夏〕まだ熟さない青い梅の実。

あお・えんどう【青えんどう】「青・豌豆」アオエンドー 名 〔季・春〕緑色で小粒のエンドウ。グリーンピース。

あお・がい【青貝】アオガイ 名 ①海岸の岩につく皿状の貝。表は青黒色、裏は美しい空色。②アワビ貝・オウム貝などの美しいつやのある部分。螺鈿（らでん）の材料。

あお・がえる【あおがえる】「青・蛙」アオガエル 名 〔季・夏〕〔動〕アカガエル科のカエル。体長六～七センチ。背は青緑色、腹は白色。

あお・かび【あおかび】「青・黴」アオカビ 名 〔植〕コウジカビ科の菌類。青緑色の胞子をつけ、餅（もち）・パンなどに寄生する青緑色のかび。

あお・き【あおき】「青木」アオキ 名 〔植〕ミズキ科の常緑低木。冬、紅色の実がなる。葉はやけどの薬。

あお・ぎり【あおぎり】「青・桐・梧桐」アオギリ 名 〔季・夏〕〔植〕アオギリ科の落葉高木。樹皮は緑色。

あお・ぐ【あおぐ】「・扇ぐ・・煽ぐ」アオグ 他五 グ・ガ・ギ・ゲ・ゴ 〔扇子・うちわなどで〕風を起こす。あおる。 文語 **四**

あお・ぐ【仰ぐ】アオグ 他五 ガ・ギ・ク・ケ・ゴ ①見上げる。あおむく。「天を一・ぐ」 対 うつむく。②目上の人としていただく。尊敬する。「師と一・ぐ」③援助や指示を頼るべき者からいただく。承る。「指示を一・ぐ」④ひと息に飲む。あおる。「毒を一・ぐ」 文語 **四**

あお・くさ【青草】アオクサ 名 あおあおとした草。

あお・くさ・い【青臭い】アオクサイ 形 カク・カク・ク ①青草のようなにおいがする。②未熟である。経験不足だ。「一・い意見」 文語 **あをくさ・しク**

あお・くちば【青朽（ち）葉】アオクチバ 名 青みのある朽ち葉色。

あお・くろ【青黒（黒い）】アオクロ 形 カク・カク・ク 黒みがかって青い。 文語 **あをぐろ・しク**

あお・さ【あおさ】「石蓴」アオサ 名 〔季・冬〕〔植〕アオサ科の海藻。緑色。長さ約一〇センチ。浅海の岩に生え、薄く平たく鮮緑色。食用。

あお・ざむらい【青侍】アオザムライ 名 ①《青い袍を着たところから》公家に仕えた六位のさむらい。②身分の低いさむらい。

あお・ざめる【青ざめる】「青（ざめる）・褪める」アオザメル 自下一 メ・メ・メル・メレ・メレ ①青白くなる。②顔色が青くなる。顔から血の気がうせる。 文語 **あをさ・む下二**

あお・じ【青地】アオジ 名 ①織物の地の青いもの。②青色の下地。

あお・じ【青磁】アオジ 名 →せいじ。

あお・じゃしん【青写真（寫眞）】アオジャシン 名 ①青地に白色で建築設計図・統計表などを表した写真。②物事の計画・予定。「まだ一の段階」

あお・じろ・い【青白い】「青白い」アオジロイ 形 ク・カク・ク ①青みを帯びて白い。②顔色が青ざめて血の気がない。 文語 **あをじろ・しク**

あお・しんごう【青信号〈號〉】アオシンゴー 名 交通機関で、進行を示す信号。一般に緑色を使う。対 赤信号。

あお・すじ【青筋】アオスジ 名 ①青色のすじ。②皮膚の上から透けて見える静脈。―を立てる かんしゃくを起こしておこる。

あお・すだれ【青すだれ】「青・簾」アオスダレ 名 〔季・夏〕「竹で編んだすだれ。

あお・ぞら【青空】アオゾラ 名 あおあおとした（澄みきった）空。晴れ渡った空。碧空（へきくう）。―市場

あお・た【青田】アオタ 名 〔季・夏〕①稲のあおあおとした田。②まだ実らない稲田。―買い アオガイ 名 ①稲の取り入れ前に収穫高を予想して、その田の米を買う約束をすること。②〔俗〕企業などが人材を獲得するために、一般の採用時期以前に、学生・生徒の採用を決定すること。 対 青田売り。―刈り アオガリ 名 ①青田のうちに稲を刈ること。②→あおだい。

あお・だいしょう【あおだいしょう】「青・大将（將）」アオダイショー 名 〔動〕ユウダ科のヘビ。体長一～二メートル。緑色の地に黒い斑点がある。毒はない。

あお・だち【青竹】アオダケ 名 ①幹の青い竹。②緑色の染料。③笛の別称。

あお・だたみ【青畳（疊）】アオダタミ 名 新しくて表のあおあおとした畳。

あお・だち【青立ち】アオダチ 名 稲がまだ熟さず、青い色のままで生えていること。また、その稲。

あお・てんじょう【青天井】アオテンジョー 名 〔青空を天井に見立てていうことば〕青空。

あお・どうしん【青道心】アオドーシン 名 ①出家して、僧になりたての人。今道心。新発意（しんぼち）。②急に思いついて起こした、深くもない信仰心。なま道心。

あお・な【青菜】アオナ 名 青い葉菜類の総称。アブラナ・スズナ・カラシナなど。―に塩 うちしおれて元気がないさま。

あお・にさい【青二才】アオニサイ 名 《青年をののしっていう》 **あお・のき【あおのき】**「・仰き」アオノキ 名 →あおむき。

あお・の・く【あおのく】「・仰くあ」アオク 自五 カ・カ・キ・ク・ケ・ケ →あおむく。 文語 **四**

あお・の・ける【あおのける】「・仰ける」アオケル 他下一 ケ・ケ・ケル・ケレ・ケレ →あおむける。 文語 **あふの・く下二**

あお・のり【あおのり】「青海苔」アオノリ 名 〔季・春〕〔植〕アオサ科の海藻。浅海の岩などに生える。食用。

あお・ば【青葉】アオバ 名 〔季・夏〕①あおあおとした木や草の葉。②若葉。新緑。

あお・ばえ【青・蠅】【蒼・蠅】アオバエ 名 〔季・夏〕〔動〕イエバエ科の青黒い大形のハエ。

あお・ば・む【青ばむ】アオバム 自五 青みを帯びる。文語 四

あお・びかり【青光り】アオビカリ 名・自サ変 青緑色に光ること。

あお・ひょう【青票】アオヒョー 名 →せいひょう。

あお・びょうたん【青びょうたん】【青・瓢・簞】アオビョータン 名 ①熟さないひょうたん。②やせて顔色の悪い人をあざけっていうことば。

あお・ぶくれ【青膨れ】【青・脹】アオブクレ 名・自サ変 顔色が悪く、むくんだように見えること。〔人〕。

あお・へど【青へど】【青反吐】アオヘド 名 吐いたばかりのなまなましいへど。

あお・まめ【青豆】アオマメ 名 ①大豆の一種。緑色で大粒のもの。②青エンドウ。グリーンピース。

あお・み【青味】アオミ 名 ①〔青み〕青色の度合い。青いこと。青さ。②刺身・焼き魚などに盛り添える野菜。

あお・みずひき【青水引】アオミズヒキ 名 紺と白の水引。黒白の水引のかわりに、凶事の時に使う。

あお・みどろ【あおみどろ】【青味泥・水綿】アオミドロ 名 〔季・夏〕〔植〕ホシミドロ科の緑藻。田や池の水中に生じる微小な藻。緑色で細長く糸状。

あお・む【青む】アオム 自五 ①〔文語的〕青くなる。緑になる。野山—む季節。文語 四

あお・むき【あおむき】【仰向き】アオムキ 名 あおむくこと。上を向くこと。あおむけ。あおのき。対うつむき。

あお・むく【あおむく】【仰向く】アオムク 自五 上を向くこと。あおのく。対うつむく。文語 四

あお・むけ【あおむけ】【仰向け】アオムケ 他下一 上を向かせる。上へ向ける。あおのける。文語 下二

あふむ・く 下二

あお・むし【青虫】【蟲】【螟蛉】アオムシ 名 〔動〕モンシロチョウなどの緑色をした幼虫。菜の葉を食う害虫。

あお・もの【青物】アオモノ 名 ①青色をした野菜類。転じて、野菜類の総称。②皮が青色の魚。サバ・イワシなど。—市場 アオモノイチバ 名 野菜類を競り売りする場所。やっちゃ場。

あお・やか【青やか】アオヤカ 形動ダロ・ダッ・ダリ・ダニ・ダナ・ダネ・ダノ・ダレ・ダヨ・ダロ あおあおとした。

あお・やぎ【青やぎ】【青・柳】アオヤギ 名 ①〔季・春〕葉のあおあおとした柳。②ベカガイのむき身の別称。

あお・やま【青山】アオヤマ 名 樹木の茂ってあおあおとした山。

あおり【あおり】【煽り】アオリ 名 ①あおること。②物事の余勢。とばっちり。「不況の—を受ける」—を食う 巻き添えで思いがけない災難にあう。そばっちをくう。—止め アオドメ 名 戸や窓が風にあおられ外れるのを防ぐため、壁または柱に取り付けた金具。

あおり【泥障・障泥】アオリ 名 下鞍から鐙あぶみに垂れて馬腹の両わきをおおう皮製の泥よけ。

あおり【あおり】【穀扇】アオリ 名 風を起こして穀物の粒をより分ける道具。

あお・る【あおる】【呷る】アオル 他五 ①〔毒を—る〕文語 四

あお・る【あおる】【煽る】アオル 他五 ①風が吹いて物を動かす。②風が戸を—る ③けしかける。扇動する。④鐙あぶみを踏んで馬を急がせる。⑤カメラを上向きにして撮影する。文語 四

あか【あか・赤】接頭 明らかな。まったくの。「裸」—恥を

あか【あか・垢】アカ 名 ①脂や汗が、ほこりと混じって皮膚にたまったよごれ。②水あか。③けがれ。よごれ。「心の—」

あか【あか・淦】アカ 名 船の底にたまる水。

あか【あか・銅】アカ 名 あかがね。どう。

あか【赤】アカ 名 ①三原色の一。鮮血のような色。②古来、日本で赤黄色から深赤色までのすべてを含む色の総称。③赤字。「赤信号」の略。対青。⑤〔俗〕共産主義者のこと。⑥「赤字」の略。⑦明らかであること。「—の他人」

あか【閼・伽】アカ 名 〔梵語〕〔仏〕仏に供える水や花。「—棚だな」

あか・あか【あか・あか(と)】【あかあか(と)・明明(と)】アカアカ(ト) 副 非常に明るいさま。「電灯が—と照らす」

あか・あか【あか・と】【赤赤(と)】アカアカ(ト) 副 真っ赤なさま。「—と染まった雲」

あか・い【赤い】アカイ 形 ①赤色をしている。②〔俗〕共産主義思想を持っている。左翼的である。文語 あか・し 〔ク〕 —い羽根 アカハネ 名 〔季・秋〕共同募金に寄附をした人がつける、赤く染めた小さな羽根。また、その募金運動。

あか・いわし【赤いわし】【赤・鰯】アカイワシ 名 ①塩づけにして干したイワシ。②赤くさびた刀。

あか・え【赤絵】【絵】アカエ 名 陶磁器に赤色を主としてかいた絵。また、その陶磁器。

あか・えい【あかえい】【赤・鱝・赤・鱏】アカエイ 名 〔季・夏〕〔動〕アカエイ科の海魚。体長約一トル。菱形がたで背が暗褐色、腹は白色。食用。

あか・えぼし【赤えぼし】【赤・烏・帽子】アカエボシ 名 赤塗りの烏帽子。異様な好みやもののたとえ。「亭主じゅの好きな—」

あか・がい【あかがい・赤貝】アカガイ 名 〔季・春〕〔動〕フネガイ科の二枚貝。浅海にすむ。肉は赤くて美味。

あか・がえる【あかがえる】【赤・蛙】アカガエル 名 〔動〕アカガエル科のカエル。背は赤褐色で、腹は黄色。産卵の薬。

あか・がし【あかがし】【赤・樫】アカガシ 名 〔植〕ブナノキ科の常緑高木。高さ一〇トルに達し、材質はかたく用途が広い。同おおがし・おおばがし・かし。

あか・がしら【赤頭】アカガシラ 名 能・歌舞伎などで、猩々しょうじょうの他の演技に使う長い赤毛のかつら。

あか・がね【あかがね】【銅】アカガネ 名 →どう(銅)。

あか・がね【赤がね】アカガネ 名 ①〔俗〕〔赤色の紙を用いたことから〕もと、軍の召集令状。

あ・がき【あがき】【足・掻】アガキ 名 あがくこと。「悪戯ずらの—」—が取れない 追いつめられてどうしようもない。

あ・がれ【あがれ】【揮】アガレ 名 〔季・冬〕寒さなどのために手足の皮が裂けたもの。

あ・がく【あがく】【足・掻く】アガク 自五 ①〔馬などが〕足で地面をかく。②もがく。じたばたする。③気をもむ。あせる。文語 四

あか・ぐろ・い【赤黒・黒い】アカグロイ 形 黒みがかって赤い。文語 あかぐろ・し ク

あか・げ【赤毛】アカゲ 名 ①赤みを帯びた髪の毛。②馬・犬などの毛色の、赤みを帯びた褐色のもの。

あか・ゲット【赤ケット】【赤毛布】アカゲット 名 〔英 blanket の略〕①赤色の毛布。②赤い毛布をかぶって歩いたの略。明治時代、都会見物の田舎者。③不慣れな外国旅行者。

あか・ど【赤子】【赤・児】【兒】アカゴ 名 生まれたばかりの子「ているさま。文語 ナリ

あか・ぜ【赤ぜ】【赤・鯝】アカゼ 名 〔季・春〕〔動〕コイ科の淡水魚。

あか・ぢ【赤ぢ】アカヂ 名 ①〔季・春〕葉のあおあおとした柳。②ベカガイのむき身の別称。

あか・ち【赤ち】アカチ 名 ①赤い土。②赤い色。

あか・つき【あかつき】【暁】アカツキ 名 ①夜明け。②物事の成就する時。

あか・つち【赤土】アカツチ 名 赤い土。

あか・とき【あかとき】【暁】アカトキ 名 ①夜明け。②物事の成就する時。

あか・とり【赤とり】【赤・鳥】アカトリ 名 ①〔季・秋〕〔動〕ホオジロ科の小鳥。②赤い鳥。

あか・ぬ【あかぬ】【飽かぬ】アカヌ 連語 ①満足しない。②あきない。

あか・ぬけ【あかぬけ】【飽かぬ・抜け】アカヌケ 名・自サ変 ①洗練されていること。②遊女などが客を取らずに抜け出すこと。

あか・ね【あかね】【茜】アカネ 名 ①〔季・夏〕〔植〕アカネ科の多年生蔓草。根は赤色で、染料・薬用。②茜色。

あか・ねいろ【茜色】アカネイロ 名 赤みを帯びた黄色。

あか・の・ま【あかのま】【閼・伽・の・間】アカノマ 名 ①〔仏〕仏に供える水や花を置く所。②〔俗〕〔閼伽の水を入れる器の意から〕ばか。あほう。

あか・ぶち【赤ぶち】アカブチ 名 ①赤い斑点。②赤い縁取り。

あか・ぶな【赤ぶな】【赤・鮒】アカブナ 名 〔動〕コイ科の淡水魚。

あか・ぼし【赤ぼし】【赤・星】アカボシ 名 ①赤い星。②赤い斑点。③〔俗〕共産主義者。

あか・ぼん【赤ぼん】【赤・本】アカボン 名 ①赤い表紙の本。②〔俗〕共産主義の思想。

あか・まつ【赤まつ】【赤・松】アカマツ 名 〔植〕マツ科の常緑高木。高さ三〇トルに達し、樹皮は赤い。材は建築・土木用。

あか・みず【赤みず】【赤・水】アカミズ 名 ①赤い色の水。②〔俗〕〔赤色の紙を用いたことから〕もと、軍の召集令状。

あか・むし【赤むし】【赤・虫】アカムシ 名 ①赤い色の虫。②〔俗〕〔赤色の紙を用いたことから〕もと、軍の召集令状。

あか・めかぶ【赤めかぶ】【赤・海・藻・かぶ】アカメカブ 名 〔植〕ホンダワラ科の海藻。

あか・もの【赤もの】アカモノ 名 ①赤い色をしているもの。②〔俗〕共産主義の思想を持っている。左翼的である。文語 あか・し ク

あか・やく【赤やく】【赤・薬】アカヤク 名 ①〔植〕ヤブコウジ科の常緑小低木。冬に赤い実をつける。②〔俗〕〔赤色の紙を用いたことから〕もと、軍の召集令状。

あか・ゆ【あかゆ】【赤・湯】アカユ 名 ①赤い色の湯。②〔俗〕〔赤色の紙を用いたことから〕もと、軍の召集令状。

あか・ら・さま【あからさま】【明・らさま】アカラサマ 形動ナリ 明らかなさま。「—に不満を表情に出す」

あか・り【あかり】【明かり】アカリ 名 ①明るさ。②灯火。③〔俗〕〔赤色の紙を用いたことから〕もと、軍の召集令状。

あか・りょう【あかりょう】【明・りょう】アカリョー 名 ①明るさ。②〔俗〕〔赤色の紙を用いたことから〕もと、軍の召集令状。

あか・るい【明るい】アカルイ 形 ①明るさ。②明るい。③明るい。文語 あか・し ク

あか・るみ【明るみ】アカルミ 名 ①明るい。②明るい。

あか・るむ【明るむ】アカルム 自五 ①明るい。②明るい。文語 四

あか・れ【あかれ】【揮】アカレ 名 〔季・冬〕寒さなどのために手足の皮が裂けたもの。

あか・ろ【赤ろ】【赤・櫓】アカロ 名 ①赤い色の櫓。②赤い色の櫓。

あか・わ【赤わ】【赤・輪】アカワ 名 ①赤い色の輪。②赤い色の輪。

あか・わ・ら【赤わら】【赤・わら】アカワラ 名 ①赤い色のわら。②赤い色のわら。

あか・ん【あかん】【赤・ん】アカン 名 ①赤い色。②赤い色。

あか・んぼう【赤んぼう】【赤・ん・坊】アカンボー 名 ①赤ん坊。②赤ん坊。

あか・んべえ【あかんべえ】アカンベエ 名 ①赤ん坊。②赤ん坊。

あか・ん・ぼう【赤ん・ぼう】アカンボー 名 ①赤ん坊。②赤ん坊。

あか・ん・べえ【赤ん・べえ】アカンベエ 名 ①赤ん坊。②赤ん坊。

供。赤ん坊。

あか・ころのう【赤行・嚢】アカコーノ名 書留などの重要郵便物の輸送に使う赤色の袋。同赤郵袋。

あか・ざとう【赤・藜】アカザ名〔季・夏〕〔植〕アカザ科の一年草。夏、黄緑色の小花が咲く。若葉は食用。

あか・ざとう【赤砂糖】アカザト名 赤茶色の、粗製の砂糖。

あか・さび【赤さび】〔赤〔錆〕〕アカサビ名 鉄にうく赤色のさび。鉄さび。

あかし【あかし〔灯〔燈〕〕】アカシ名 ともしび。明かり。灯明。

あかし【あかし〔証〔證〕〕】アカシ名 証明すること。②疑証。

あかし【赤字】アカシ名 ①〔毬〕〔帳簿に赤色で不足額を示すところから〕収支決算で、収入より支出が多いこと。欠損。②黒字。②印刷物の校正の時、誤りを直す赤色の文字。

アカシアアカシア名〔英 acacia〕〔植〕①マメ科の常緑高木。初夏、黄または白の小花が咲く。②ハリエンジュの俗称。ニセアカシア。＝アカシヤ。

あか・しお【赤潮】アカシオ名〔季・春〕微生物の繁殖のために、海水が赤く見える現象。養殖魚などに有害。

あか・しら・す【明(かし)す】アカシラス 自五 暮らす。日を暮らす。月日を送る。文語 四

あかし・ちぢみ【明・石縮】アカシチヂミ名〔兵庫県明石地方から産したので〕縦に生糸、横によりの強い練り糸を使って織り縮ませた高級な夏物の薄織物。明石。

あか・じみる【あかじみる〔垢染みる〕】アカジミル 自上二 あかでよごれる。文語 あかじ・む 上二

あか・しんごう【赤信号〔號〕】アカシンゴウ名 ①交通機関の危険・停止を示す赤色の信号。対青信号。②危険や物の不足の状態を知らせる合図。

あか・しんぶん【赤新聞】アカシンブン名 ①赤みのある紙を使ったとうの裏面や、私行についての誇大な暴露記事を主とする下等な新聞。

あか・す【明かす】アカス 他五 ①隠されたもの、秘密などを打ち明ける。②身の潔白を―す。③〔証す〕証明する。④〔夜を過ごす〕飲み―す。③〔証す〕証明する。

あか・す【飽かす】アカス 他五 ①満足させる。十分に〔鼻をあかす の形で〕相手をだしぬく。文語 四

あか・す【飽かす】アカス 他五 ①満足させる。十分に使う。②惜しげもなく使う。金に―す。文語 四

あか・ず(に)【飽かず(に)】〔「文語的」飽きずに。いつまでも。

あかず・の・ま【開かずの間】〔「不・開間」〕アカズノマ 名 ①特別の時だけしかあかない部屋。②不吉だとして閉めたままあけない部屋。

あか・すり【あか擦り〔垢・磨〕】アカスリ 名 入浴の中で、あかをこすり落とすのに使う布・へちま・軽石など。

あがた【〔県〕〔縣〕】名〔古〕①上代、諸地方にあった皇室の御料地。転じて、豪族の料地。②地方官が任国をさしていったことば。「―召」③田舎。地方。

あか・だし【赤だし〔赤出し〕】アカダシ名 ①大阪風の、魚肉を入れた赤みそ汁。②赤みその汁。

あか・ちゃ・ける【赤茶ける】アカチャケル 自下一 (日焼けや、色あせたりして)赤みを帯びた茶色になる。

あか・ちゃん【赤ちゃん】アカチャン名 赤ん坊。赤子。

あか・チン【赤チン】アカチン名 マーキュロクロムの俗称。

あか・つき【暁〔曉〕】アカツキ名 ①明け方、いぶん明るくなった時分。夜明け。②〔形式名 (物事が実現・完成する)その時。―には―やみ(闇)アカツキ 〔「文語的」〕月の出ていない夜明け方。また、そのころの暗さ。月の早く沈む陰暦十四日ごろまでの現象。

あがっ・たり【上がったり】アガッタリ 形動 ナリ 商売や事業などがまったく振るわなくなること。

あか・つち【赤土〔赭土〕】アカツチ名 ①赤黄色の土。岩石の風化や火山灰などでできた、鉄分を含む土。②赤黒色の絵の具。

あか・つら【赤面〔赭面〕】アカツラ名 ①赤い顔。②〔顔を赤く塗ることから〕歌舞伎で、敵役(かたきやく)の別称。

アカデミーアカデミー名〔英 academy〕①学問・芸術の研究を目的とする学識者の団体。②翰林院(かんりんいん)・学士院。②大学・大学院・研究所などの総称。―賞(しょう)アカデミーショー名 アメリカ映画科学芸術協会が、年度ごとに最優秀作品、最優秀男(女)優などに与える賞。一九二八年に始まる。オスカー賞。

アカデミズムアカデミズム名〔英 academism〕①官学風。学士院風。②実際的でない理論。空理空論。

アカデミックアカデミック 形動 ナリ〔英 academic〕①学究的。②官学的。③非実際的。空理的。

あか・でんしゃ【赤電車】アカデンシャ名 ①目じるしに赤い電灯をつけることから。②その日の最終の電車。赤電。

あか・でんわ【赤電話】アカデンワ名 委託で店先などに置く、赤色の公衆電話。

あか・とんぼ【赤とんぼ〔赤蜻蛉〕】アカトンボ名〔季・秋〕〔動〕小さくて赤い色のトンボの総称。秋、群れをなして飛ぶ。同あかねとんぼ。

あがな・う【あがなう〔購う〕】アガナウ 他五 ①〔「文語的」買い求める。「宅地を―う。文語 ハ四

あがな・う【あがなう〔贖う〕】アガナウ 他五 ①〔罪を犯した時、金品や奉仕などによって許してもらう。埋め合わせをする。償う。「罪を―う。文語 ハ四

あか・なす【赤なす〔赤茄子〕】アカナス名〔季・夏〕トマトの別称。

あか・ぬ【あか抜け〔垢抜け〕】アカヌケ名・自サ変 あか抜けること。「―のした女」

あか・ぬ・ける【あか抜ける〔垢抜ける〕】アカヌケル 自下一 容姿や技芸などが洗練される。すっきりといきになる。あか抜けする。「―けた服装」

あか・ね【あかね〔茜〕】アカネ名 ①〔季・秋〕〔植〕アカネ科の多年生つる草。初秋に薄黄色の花が咲く。根は紅色で染料になる。②あかね色の染料。③あかね色。―色(ぞめ)アカネ名 赤く日に照り映えている雲。

あか・の・まんま【あかのまんま〔赤の・飯〕】アカマンマ名 ①せきはん。②〔季・秋〕〔植〕イヌタデの別称。アカマンマ。

あか・はじ【あか恥・赤恥〔恥〕】アカハジ名 「恥」を強めた言い方。ひどい恥。―をかく＝あかっぱじ。

あか・はた【赤旗〔赤〕】アカハタ名 ①赤色の旗。②平氏の旗。対白旗。③革命派・共産党・労働者の旗。④危険信号の旗。

あか・はだ【赤肌〔赤・膚〕】アカハダ名 ①赤くすりむけたはだ。②まるはだた。③草木がなく、赤土がむき出しの地はだ。「―の山」④鳥・けものの羽毛の抜けた状態。

あか・はだか【あか裸・赤裸〔赤裸〕】アカハダカ名 まったくの裸。まる裸。素裸。

あか・はな【赤鼻〔赤〕】アカハナ名〔飲酒などで〕赤くなった鼻。

あか・はら【赤腹〔赤〕】アカハラ名 ①〔あかはら〕〔季・夏〕〔動〕ツグミ科の鳥。背は青みがかった色、わき腹はきつね色。②〔動〕ウグイの別称。③〔動〕イモリの俗称。④赤痢の俗称。

あか・びかり【あか光り〔垢光〕】アカビカリ名・自サ変 衣服の、あかによって光っていること。

あか・ひげ【赤ひげ〔赤・髭・赤・鬚〕】アカヒゲ名 ①赤いひげの人。②〔俗〕西洋人をののしっていうことば。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

あか・ふだ【赤札】アカフダ 名 ①(目立つように)特価品や見切り品につける赤色の札。②売約済み商品につける赤色の札。

アガペー アガペー 名 (ギリ agapē)〔宗〕キリスト教で、神の愛。また、自己を犠牲にすることによって実現される神や隣人への愛。

あか・ぼう【赤帽】アカボー 名 ①赤色の帽子。②赤い帽子をかぶっていることから)駅で、客の手荷物を運ぶ人。ポーター。

あか・ほん【赤本】アカボン 名 ①(文)江戸時代の草双紙(くさぞうし)の一種。表紙の赤い、絵を主にしたおとぎ話の本。②低俗な本。

あかまいし【赤間石】アカマイシ 名 〔鉱〕山口県産の赤褐色・紫色の石。すずりに使う。赤間(あかま)。

あか・まつ【赤松】アカマツ 名 〔植〕マツ科の常緑高木。樹皮が茶褐色のもの。日本特産。材は建築・製紙用メマツ。

あか・み【赤味】アカミ 名 赤色の度合い。赤いこと。「〔文語〕ナリ

あか・み【赤身】アカミ 名 ①魚肉などの赤い部分。(対)白身。②材木の中心の赤い部分。心材。

あか・みそ【赤味噌】アカミソ 名 麦こうじを混ぜてつくった赤い色みそなど。(対)白みそ。

あか・むけ【赤むけ】アカムケ 名・自サ変 皮膚が赤くすりむけること。また、その部分。

あか・め【赤目】アカメ 名 ①充血して赤い目。②(ウサギの目など)外から血の色が透けて見える目。③→あかんべえ。④〔動〕メナダの別称。また、アカメ科の海魚。

あかめ・がしわ【あかめがしわ】〔赤芽柏〕アカメガシワ 名 〔植〕タカトウダイ科の落葉高木。山野に自生し、若芽は鮮紅色。

あか・める【赤める】アカメル 他下一 メ|メ|メル|メル|メレ|メレ|メロ|メロ|メレ|メレ|メレ|メレ|メロ|メロ|メレ|メレ|メレ|メレ|メロ|メロ|メレ|メレ

あき【秋】アキ 名 四季の三番目。九月から十一月まで。陰暦では七月から九月まで。天文学では、立秋から立冬まで。「一播き」「一植え」―の空ぞら《秋は天候がかわりやすいことから》男女の愛情のうつろいやすいことのたとえ。「男心と―」

あき【安芸(藝)】アキ 名 旧国名の一。今の広島県西部。

あき【飽き】アキ 名 ①飽きること。「一もうーした」

あき【あき】アキ 名 ②飽きること。いやになること。「もうー飽きること。いやになること。」

あき【あじ】アキアジ 名 [季・秋]秋にとれる鮭さけ。また、塩ザケ。

あき【おち】アキオチ 名・自サ変 ①[農]秋に収穫が予想より減ること。②《秋落ち相場」の略》秋に予想よりも豊作になり、米の値段が下がること。対秋高。

あき【かぜ】アキカゼ 名 ①[季・秋]秋に吹く風。②《飽き」にかけて》男女の愛情が冷めること。「一が立つ」

あき【がら】アキガラ 名 中身がからになった入れ物。

あき【かん】アキカン 名 中身の入っていない。からのかんかんから。

あき【くさ】アキくさ 名 「咲く草。

あき【ぐち】アキグチ 名 [季・秋]秋に花の

あき【ぐち】アキグチ 名 [季・秋]秋のはじめ。初秋。

あき【ど】アキど 名 [季・秋]七月下旬の終わりに飼うカイコ。しゅうさん。対春蚕・夏蚕。

あき【さく】アキサク 名 [農]①秋に栽培する作物。②秋に収穫する作物。特に、稲。

あき【しょう】アキしょう 名 [季・秋]秋に降る雨。

あき【しょう】アキしょう 名 [季・秋]秋に降る雨。

あき【しろ】アキしろ 名 ①[農]秋に収穫が予想より減ること。②《飽き」にかけて》男女の愛情が冷めること。「一が立つ」

あき【だな】アキだな 名 ①[農]秋に収穫が予想より減ること。②《飽き」にかけて》男女の愛情が冷めること。「一が立つ」

あき【だか】アキだか 名 ①[農]秋に収穫が予想より減ること。②《飽き」にかけて》男女の愛情が冷めること。「一が立つ」

あき【だか】アキだか 名 ①[農]秋に収穫が予想より減ること。②《飽き」にかけて》男女の愛情が冷めること。「一が立つ」

あき【だな】アキだな 名 ①[農]秋に収穫が予想より減ること。②《飽き」にかけて》男女の愛情が冷めること。「一が立つ」

あき【ぢち】アキぢち 名・自サ変

あ

あく【悪】【惡】 教 音 アク・オ(ヲ) 訓 わるい

一 亜 亜 悪

□意味 ①道徳的によくないこと。極悪・人倫に反する。「悪者」・悪びれる。・性悪・「悪い奴」②見聞きしたり感じたりして不快に思われる意。醜い意。「悪臭」・悪筆・醜態・悪い声・男前が悪い。③気分・夢・雰囲気・ないがすれない。・悪夢・険悪・「悪寒」・悪心・悪阻・「きまりが悪い」・顔色が悪い。④品質が落ちている。・悪貨・粗悪・悪い・悪源太・悪戦苦闘・悪口・「悪僧」・悪疾・悪意を持っている。憎む。「悪意」・悪口・「嫌悪」・好悪・⑦芝居の敵役。また、悪人。実悪・色悪・にくむ・あしい。不正を悪にくむ。「悪しざまに言う」熟字訓 悪阻・「悪」

□アク 名 道徳的によくないこと。不正。「一を懲らす」

あく【握】 音 アク 訓 にぎる　オ ヲ 扼 握

意味 ①手のひらで包み込むようにしてしっかり持つ。「握手」・握力・一握・「短刀を握る」・一握り ②自分でしっかり支配・所有・理解する。・掌握・把握・「政権を握る」③手のひらで包み固める。「握り飯」熟字訓 つか・む。「部下の心を握る」

あく【あく】 灰汁 アク 名 ①灰を水に浸してとった上澄み。アルカリ性があり、洗濯や染め物に使う。②植物などに含まれる渋み。「一を抜く」③「性質・文章などの」ぎこさ。「一の強い人」**―が抜ける**（性格などが）洗練される。いきになる。

あく【空く】 アク 自五 ①ひまになる。「手が―く」「―いた時間」②からになる。「―いた部屋」③欠員になる。「課長の席が―く」④（物が）使われない状態になる。「―いたら貸してくれ」文語 四

あく【明く】 開く アク 自五 ①閉じていたものが自然にひらく。「目が―く」②始まる。「店が―く」③すきまができる。「列の間が―く」「穴が―く」文語 四

あく【あらい】 洗い 【灰汁洗い】 アクアライ 名・他サ変 （柱・天井・板塀などのよごれを）「あく①」で洗ってよごれをとること。

アクアラング アクアラング 名 [Aqua-Lung] 《ラテ aqua（水）＋英 lung（肺）から》商標名 圧縮空気ボンベのついた水中呼吸装置。潜水肺。

（アクアラング）

あく【い】 悪〈惡〉 アクイ 名 ①人を傷つけようとする悪い心。悪気。―がない。②意地の悪い見方。悪い意味。「―にとる」③〔法〕ある事実につき、それを悪事と知っていながら事をやること。「―占有」対 善意。

あく【いん】 悪〈惡〉因 アクイン 名 悪い結果を起こす原因。対 善因。―**悪果** アクインアッカ 名 〔仏〕悪いことをすれば、それが原因で必ず悪い報いがあること。

あく【うん】 悪〈惡〉運 アクウン 名 ①不運。②悪い行いをしても栄えるような強い運。「―が強い」

あく【えき】 悪〈惡〉疫 アクエキ 名 悪性の流行病。

あく【えん】 悪縁〈惡縁〉 アクエン 名 ①悪い縁。②離れたくても離れられない縁。腐れ縁。おもに男女関係にいう。

あく【がた】 悪〈惡〉形 アクガタ 名 →あくやく。

あく【かんじょう】 悪〈惡〉感情 アクカンジョー 名 特定の人を不愉快だと思う気持ち。―あっかんじょう。

あく【ぎゃく】 悪〈惡〉逆 アクギャク 名 道理に外れた大悪事。主君・父を殺すなど。―**無道** アクギャクムドー 名 「悪逆」を強めていうことば。

あく【ぎょう】 悪〈惡〉行 アクギョー 名 悪い行い。悪。対 善行。

あく【ごう】 悪〈惡〉業 アクゴー 名 〔仏〕悪い結果をひき起こすような（前世での）行い。対 善業。

あく【さい】 悪〈惡〉才 アクサイ 名 悪事を行うのにたけた才

あく【さい】 悪〈惡〉妻 アクサイ 名 悪い妻。夫のためにならない妻。対 良妻。

あく【じ】 悪〈惡〉事 アクジ 名 ①悪い行い。「―を働く」②災厄。災難。「―が重なる」対 善事。―**千里を走る** 悪事は隠してもすぐ世間に知れ渡る。

あく【じき】 悪〈惡〉食 アクジキ 名・自サ変 ①粗末な物を食べること。粗食。＝あくしょく。②普通の人が食べないような物を食べること。いかもの食い。

あく【しつ】 悪〈惡〉疾 アクシツ 名 悪性の病気。

あく【しつ】 悪〈惡〉質 アクシツ 名・形動ダ 品質が悪いこと。対 良質。②悪い行いの中でも特にたちの悪いこと。「―な選挙違反」

アクシデント アクシデント 名 [英 accident] 事件。事故。

あく【しゅ】 悪〈惡〉手 アクシュ 名 碁・将棋などで、自分自身不利になるまずい石・駒の置き方。あて。

あく【しゅ】 握手 アクシュ 名・自サ変 ①親愛・和解のあいさつとして互いに手を握り合うこと。②協力すること。また、和解すること。

あく【しゅう】 悪〈惡〉臭 アクシュー 名 悪いにおい。いやなにおい。「―を放つ」

あく【しゅう】 悪〈惡〉習 アクシュー 名 悪い習慣。悪風。対 良習。

あく【しゅみ】 悪〈惡〉趣味 アクシュミ 名・形動ダ ①品の悪い趣味。②人のきらうことを平気ですること。

あく【しゅんかん】 悪〈惡〉循環 アクジュンカン 名 互いに悪い影響を及ぼし合って、悪い状態が繰り返し続くこと。対 好循環。

あく【しょ】 悪〈惡〉所 アクショ 名 ①道の険しい所。難所。②遊里。「一金」「一通い」

あく【しょ】 悪〈惡〉書 アクショ 名 俗悪な書物。社会道徳上、有害な本。「追放運動」対 良書。

あく【じょ】 悪〈惡〉女 アクジョ 名 ①心のよくない女。②醜い女。しこめ。―の深情**けが美人よりも醜い女のほうが愛情や嫉妬**心が強いということ。転して、ありがたい迷惑なことのたとえ。

あく【しょう】 悪〈惡〉性 アクショー 名・形動ダ ①身持ちのよくないこと。遊蕩。②心根の悪いこと。性悪。

あく【しょく】 悪〈惡〉食 アクショク 名 →あくじき①。

アクション アクション 名 [英 action] ①活動。②俳優の演技。―ドラマ アクションドラマ 名 [英 action drama] 格闘や立ち回りの場面が中心となって展開する劇。活劇。

あく【しん】 悪〈惡〉心 アクシン 名 悪い心。悪い考え。悪念。対 善心。

あく【じん】 あくしん 悪〈惡〉神 アクジン 名 人に害を与える神。

あく【せい】 悪声〈惡聲〉 アクセー 名 ①悪い声。対 美声。②悪いうわさ。同 悪評。対 名声。

あく【せい】 悪〈惡〉性 アクセー 名・形動ダ たちがよくないこ

と。「一の風邪」同悪質。

あく・せい【悪〈惡〉・政】アクセー 名 よくない政治。対善政。

あく・ぜい【悪〈惡〉・税】アクゼー 名 不当な課税。

あく・せく・(と)【あく・せく(と)】「齷齪・齪(と)・〈偓・促(と)〉」アクセク(アクそク) 副 小さいことにこだわるさま。こせこせするさま。「一(と)働く」対悠悠ゆう。

アクセサリー アクセサリー 名 (英 accessory) ①付属品。②衣服やからだの一部につける装飾品。ブローチ・イヤリング・ネックレスなど。

アクセル アクセル 名 (英 accelerator (調節弁)の邦略形) 自動車の加速装置。また、特にそのペダルをさす。ペダルを足で踏んで速度を調節する。

あく・せん【悪・銭〈惡・錢〉】アクセン 名 ①粗悪な貨幣。同悪貨。②不法な手段で得た金銭。**―身を つかず** 不正な方法で得たお金はむだに使われてすぐになくなる。

あく・せん・くとう【悪・戦〈惡・戰〉・苦・闘】アクセンクトー 名・自サ変 不利な苦しい戦闘をすること。転じて、死にものぐるいで努力すること。

アクセント アクセント 名 (英 accent) ①〔言〕一語の中で、特に強く、または高く発音する部分。②ことばの調子。抑揚。③服飾・建築・図案などで、全体の調子を整えるために強調する部分。襟(ぇり)に一をつける」

あく・そう【悪〈惡〉・相】アクソー 名 ①にくにくしい顔つき。凶悪な人相。②不吉なさま。

あく・そう【悪・僧〈惡・僧〉】アクソー 名 ①戒律を破り、悪い行いをする僧。②〔文語的〕豪勇な僧。

あく・た【芥】アクタ 名 ごみ。ちり。「く」

あく・たい【悪〈惡〉・態】アクタイ 名 悪口。憎まれ口。「―をつく」

あく・だま【悪〈惡〉・玉】アクタマ 名 〔江戸時代、草双紙(くさぞうし)などの絵で、円形で表した人の顔に「悪」の字を書いて悪人を表したことから〕悪人。対善玉。

あく・たれ【悪〈惡〉・たれ】アクタレ 名 ①ひどいいたずらや乱暴をすること。「子供の―」②小僧」

憎まれ口。「口をたたく」

あく・た・れる【悪〈惡〉・たれる】アクタレル 自下一 (レレ/レレ/レロ) 憎まれ口をきく。

①子供がやんちゃを言う。無理を言ってあばれる。②〔子供が〕憎まれ口をきく。

あく・たろう【悪〈惡〉・太郎】アクタロー 名 →あくどう〔悪

あく・ち【悪〈惡〉・血】アクチ 名 病毒を含んでいる血。

アクチニウム アクチニウム 名 (英 actinium)〔理〕放射性元素の一。記号 Ac 原子番号89 原子量227 ウラン232 が壊変していく過程で生ずる銀白色の金属。

アクチブ アクチブ (一)形動タ (英 active)積極的。能動的。Ⅱアクティブ。対パッシブ。(二)名 (ドイ aktiv)政治団体や労働組合の中で、特に積極的な活動分子。

あく・てん【悪〈惡〉・天】アクテン 名 (暴風・雨など)悪い天候。悪天候。対好天。

あく・と【悪〈惡〉・徒】アクト 名 ①悪人の仲間。②悪人。同悪党。

あくど・い アクドイ 形 (カ・ク・シ・ケレ) ①程度が過ぎていやらしい。「―いい化粧」②たちが悪い。あくらつだ。「―・いいずり」

文語 あくど・し

あく・とう【悪〈惡〉・投】アクトー 名・他サ変 野球で、相手の取れないようなボールを投げること。

あく・とう【悪〈惡〉・党〈惡・黨〉】アクトー 名 ①悪人。悪漢。②悪人の仲間。同悪徒。

あく・どう【悪〈惡〉・童】アクドー 名 いたずらな子供。悪太郎。

あく・どう【悪〈惡〉・道】アクドー 名 ①悪い道路。悪路。②悪い行い。遊蕩(ゆう)。―に走る」③〔仏〕悪い行いの結果として行く地獄道・餓鬼道・畜生道の三悪道(さんどう)。

あく・とく【悪〈惡〉・徳〈惡・德〉】アクトク 名 道徳に外れた悪い行為。「一商人」対美徳。

あく・にち【悪〈惡〉・日】アクニチ 名 運の悪い日。凶日(きょう)。対吉日(きちにち)。

あく・にん【悪〈惡〉・人】アクニン 名 悪い者。悪漢。対善人。

あく・ぬき【あく・抜き〈灰汁抜〉】アクヌキ 名・他サ変 野菜などの渋みを抜くこと。

あく・ぬけ【あく・抜け〈灰汁抜〉】アクヌケ 名・自サ変 ①野菜などにある渋みが抜けること。②いやみがなくなり、さっぱりすること。あか抜け。

あぐ・ねる アグネル 自下一 (ネ/ネ/ネル/ネレ/ネロ) →あぐむ。

あく・ねん【悪〈惡〉・念】アクネン 名 悪い心。「と。悪口。

あく・ば【悪〈惡〉・罵】アクバ 名・他サ変 口ぎたなくののしること。

あく・び【あく・伸〈欠伸〉】アクビ 名 ①眠い時や疲れた時に自然に口があき、息が出ること。また、その息。②「欠」漢字の部首名称の一。「次」「歌」などの「欠」。

あく・ひつ【悪〈惡〉・筆】アクヒツ 名 ①粗末な筆。②下手な文字。まずい筆跡。対達筆・能筆。

あく・ひょう【悪〈惡〉・評】アクヒョー 名 悪い評判。「―を買う」同悪声。対好評。

あく・びょう【悪〈惡〉・病】アクビョー 名 たちの悪い病気。「悪疾。

あく・びょうどう【悪〈惡〉・平等】アクビョードー 名 実質を無視した無差別の平等。形の上だけのまちがった平等。

あく・ふう【悪〈惡〉・風】アクフー 名 悪い習慣。悪風。対良風・美風。

あく・ぶん【悪〈惡〉・文】アクブン 名 わかりにくい文章。下手な文章。対名文。

あく・へい【悪〈惡〉・弊】アクヘー 名 悪い習慣。悪風。

あく・へき【悪〈惡〉・癖】アクヘキ 名 悪い癖。

あく・へん【悪〈惡〉・変〈惡・變〉】アクヘン 名・自サ変 悪くなること。悪くかわること。対好変。

あく・ほう【悪〈惡〉・法】アクホー 名 悪い法律。

あく・ほう【悪〈惡〉・報】アクホー 名 ①〔仏〕悪事の報い。②悪い知らせ。凶報。対吉報。

あく・ま【悪〈惡〉・魔】アクマ 名 ①〔仏〕人に害を加えたり、修行の邪魔をしたりする悪神。②人の心をまどわして悪に誘うもの。デビル・デモン・サタンなど。対天使。③極悪人。―主義アクマシュギ 名 〔文〕十九世紀末に現れた文芸上の一傾向。現実の社会・倫理に反逆して、人生の暗黒面を描き、悪の中に美を見いだそうとするもの。ボー・ボードレール・ワイルドらがその代表者。ネオニズム。

あく・まで(・も)【飽くまで(も)】アクマデ(モ) 副 徹底的に。どこまでも。「―(も)抵抗する」「空は―(も)青く澄んでいる」

あく・みょう【悪〈惡〉・名】アクミョー 名 →あくめい。

あく・む【悪〈惡〉・夢】アクム 名 恐ろしい夢。いやな夢。不吉な夢。対吉夢。

あぐ・む【あぐむ・〔倦む〕】アグム 自五 (ム/ミ/ム/ム/メ/メ) 〔多く、動詞の連用形に付いて〕①いやになる。飽きる。「人を待ち―む」②もてあます。「考え―む」「攻め―む」同あぐねる。

文語 四

あく・めい【悪〈惡〉・名】アクメー 名 悪い評判。悪いうわさ。「―高い」―をあがめよう。対美名。

あく・やく【悪〈惡〉・役】アクヤク 名 演劇・映画などで、悪人の役。敵役(かたき)。同悪役(わるやく)。

あく・ゆう【悪〈惡〉・友】アクユー 名 ①悪い友人。②〔俗〕親友。また、遊びの友達。

あく・よう【悪〈惡〉・用】アクヨー 名・他サ変 悪い目的に使うこと。―をかく ①あぐらを組んですわる。②いい気になって、のほほんと構える。

あく・ら【胡坐・趺坐】アグラ 名 両足を組んですわる。

あく・らつ【悪〈惡〉・辣】アクラツ 形動ナ (ナ/ナ/ナ/ニ/ネ/ナ) 平たく大きな鼻。たちが悪

く、やり方がひどいさま。文語 ナリ

あぐり・あみ【揚網】アグリアミ 名 巻き網の一種。長方形に打ち回して魚群を囲み、網の下方から繰り上げて魚を捕らえるもの。

あくりょう【悪霊〈悪鬼〉】アクリョウ 名 たたりをする死者の霊。同怨霊〈悪鬼〉

あくりょく【握力】アクリョク 名 手で物を握りしめる力。—計 アクリョクのケー

名 握力を測定する器械。

アクリル アクリル 名 (英 acryl) ①「アクリル樹脂」の略。②「アクリル繊維」の略。—**樹脂** アクリルジュシ 名 アクリル酸を中心として各種のものを重合した合成樹脂の総称。軟から酸に強く、透明で軽く、安全ガラス、建築材料などに用いられる。—**繊維** アクリルセンイ 名 合成繊維の一。吸水性がほとんどなく、軽くてしわになりにくい。羊毛の代用として使われる。

(握力計)

あくる【明くる】アクル 連体 (時について)次の。翌。「—朝」「—日」「—年」「日曜日」

あく・れい【悪〈惡〉例】アクレー 名 悪い先例。悪い慣例。

アグレマン アグレマン 名 (仏 agrement(同意・承認)) 大使・公使を派遣する時、前もって相手国に求める承認。

あく・ろ【悪〈惡〉路】アクロ 名 悪い道。

アクロバット アクロバット 名 (英 acrobat) 軽業。曲芸。また、それをする人。

あけ【あけ「・朱・緋」】アケ 名 赤い色。しゅ。—**に染まる** 「血だらけになる。

あけ【明け】アケ 名 ①夜が明けること。夜明け。「—の鐘」 対 暮れ。②期間が終わること。「休暇—」

あげ【上げ】アゲ 名 ①上げること。 対 下げ。②着物の裄・丈を短くするため、肩や腰の部分を縫い上げること。縫い上げ。

あげ【揚げ】アゲ 名 ①油で揚げること・(もの)。②「油揚げ」の略。

あげ・あし【揚(挙・擧)げ足】アゲシ 名 相撲や柔道で、宙に浮き上がった足。「—取り」—**を取る** 人のことばじりをとらえて、とがめたり、からかったりする。

あげ・あぶら【揚げ油】アゲアブラ 名 揚げ物に使う油。

あげ・いし【上(げ)石】アゲイシ 名 囲碁で、相手から囲み取った碁石。浜。

あげ・いた【上(ゃ揚)(げ)板】アゲイタ 名 ①—あげぶた。②劇場の舞台と花道とのつなぎ目の左右の板敷き。③ふろ場などの流しの上に置く板。「ジュース・アゲーン。

アゲーン アゲーン 名 (英 again) ①再び。いま一度。②—ジェット・アゲーン。

あげ・おろし【上げ下ろし】アゲオロシ 名・他サ変 ①上げることと下げることと。また、上げたりおろしたりすること。「箸」の—」②荷物の積み・おろし。③ほめることと、けなすこと。

あげ・かじ【上げかじ】アゲカジ 名 飛行機を上に向かせるためのかじのとり方。 対 下げかじ。

あげ・かす【揚げかす】アゲカス 名 揚げ物をしたあとに油の中に残るかす。揚げ玉。

あげ・がた【明(け)方】アゲガタ 名 夜が明けようとするころ。あかつき。 対 暮れ方・晩方。

あけ・がらす【明けがらす】明・烏】アケガラス 名 ①夜明けに鳴くカラス。②墨の隠語。

あけ・くれ【明け暮れ】アケクレ (一)名 (文)連歌・俳諧の最後の七七の句。 対 発句。(二)【あけくれ】形式名 …した結果。終わり。しまい。「迷った—、相談する」—**の果て** 結局。とどのつまり。「を送る。文語 四

あけ・くら・す【明け暮らす】アケクラス 自五 月日朝夕。転じて、日々。毎日。②自サ変 年月が過ぎること。「青見に—する(三)副 年が明けるまで。いつも。

あげ・さげ【上げ下げ】アゲサゲ 名・他サ変 ①上げることと下げること。②ほめることと、けなすこと。③潮が満ちることと引くこと。④物価の高騰と下落。

あげ・しお【上げ潮】アゲシオ 名 ①満ちてくる潮。満ち潮。②興隆・充実していく勢いの時期。 対 下げ潮。

あけ・しめ【開け閉め】アケシメ 名・他サ変 (とびらや弁を)「開いたり閉じたりすること。

あけ・すけ【あけすけ】形動 ナリ 包み隠さないさま。「—にものを言う」文語 ナリ

あげ・せん【上(ゃ揚)(げ)銭〈錢〉】アゲセン 名 ①売上金。②手数料。③掛け金。④釣銭。⑤揚げ代。

あげ・ぜん【上げぜん】アゲゼン 名 食事が済んで、膳を取り下げること。 対 据え膳。—**据え膳** アゲゼンスエゼン 名 (すわったままでいて、食膳を運び置いてもらうことの意から)自分は何もせず楽をしていて、もっぱら人の世話やもてなしを受けていること。

あげ・ぞこ【上げ底】アゲゾコ 名 箱・おけなどの底が見かけより高くつくってある。こと(もの)。

あげ・だい【揚(げ)代】アゲダイ 名 芸者などを呼んで遊ぶ代金。玉代。

あげ・だし【揚(げ)出し】アゲダシ 名 豆腐・ナスなどを、衣をつけて揚げた食品。

あけ・たて【開けたて】【開・閉】アケタテ 名・他サ変 戸や障子をあけたりめたりすること。

あげ・だま【揚(げ)玉】アゲダマ 名 ①「物の名」。②揚げかす。

あけ・っぱなし【開けっ放し】アケッパナシ 名・形動ダ (あけはなし」の転)①戸・障子などをあけはなしておくこと。②家じゅう留守にすること。

あけつ・ぴろげ【あけっぴろげ】【開・拡(擴)げ】アケッピロゲ 名・形動ダ (あけひろげ」の転)①十分にあけ広げること(さま)。②心に包み隠すことがない・こと(さま)。

あけつ・つら・う【あけつらう】【論う】アケツラウ 他五 (文語的)言い争う。また、ささいなことを言いとがめる。文語 ハ四

あけ・て【明けて】アケテ 副 新年になって。「—十六歳」

あげ・て【挙(擧)げて】アゲテ 副 ことごとく。こぞって。残らず。「責任は—君にある」

あげ・ど【揚げ戸】アゲド 名 上に押し上げてあける戸。突き上げ戸。

あげ・なべ【揚げなべ【揚鍋】】アゲナベ 名 揚げ物をするための、口が広く底の浅い平たいなべ。てんぷらなべ。

あげ・ぶた【明け蓋】アケブタ 名 ①旅行用のつづら。外側をごでおおい、かどやふちに割り竹をつけたもの。②十両以上の力士が、まわし・着物などを入れる長方形の箱。

あけ・の・こる【明け残る】アケコル 自五 夜が明けた空に月や星が残って見える。文語 四

あけ・の・みょうじょう【明けの明星】アケノミョージョー 名 (天)明け方、東の空に見える金星。対 宵の明星。

あけは・ちょう【あけはちょう【揚羽・蝶】】アケハチョー 名 (季・夏)(動)①アゲハチョウ科のチョウの総称。大形で美しいチョウ。②ナミアゲハの俗称。アゲハ。

あけ・はな・す【開け放す】アケハナス 他五 ①戸・障子などをすっかりあけておく。②開いたままにしておく。文語 四

あけ・はな・つ【開け放つ】アケハナツ 他五 →あけはなす。文語 四

あけ・はな・れる【明け離れる】アケハナレル 自下一 夜がすっかり明ける。文語 **あけはなな・る** 下二

あけ・はら・う【明け払(拂)う】アケハラウ 他五 ①

①あけ放す。②明け渡す。文語 ハ四

あけ・ばん【明け番】アケバン 名 ①宿直・警備など、夜どおしの勤務を終えて退出すること。下番。②夜間の勤務の翌日の休暇。③夜明け方の勤務。

あけび【あけび【木通・通草・野木瓜】アケビ 名 〔季・秋〕〔植〕アケビ科のつる性落葉低木。春、紫色の花が咲く。実は食べられ、同あけびがすから・やまひめ。

あげ・ひばり【揚げひばり【揚雲雀】アゲヒバリ 名 〔季・春〕空高く舞い上がるヒバリ。

あげ・ぶた【上(ウワ)げぶた【揚・蓋】アゲブタ 名 板の間などのゆかで、取り外しのできるようにしてある部分。上げ板。

あけ・ぼの【あけぼの【曙】アケボノ 名 ①夜の明け始めるころ。②物事の始めのころ。「文化の―」

あげ・まき【揚巻(総巻・角)】アゲマキ 名 ①昔の子供の髪形の一。頭の左右に、ツノのように二つの輪形をつくったもの。また、そのような髪の子供。②〔演〕歌舞伎で、女形のかつらの一。③ひもの結び方の一。「文箱は・すだれなどの飾りに用いる。③揚巻結び。④【あげまき】〔動〕マテガイ科の二枚貝。円筒形で、浅海にすむ。食用。

あげ・まく【揚(げ)幕】アゲマク 名 〔演〕能舞台の橋懸(はしがか)や、歌舞伎などの花道の出入り口にかける幕。切り幕。対引き幕。

あげ・まど【揚(げ)窓】アゲマド 名 突き上げるとひさしのようになる、戸のついた窓。突き上げ窓。

あげ・もち【揚もち【揚餅】アゲモチ 名 油で揚げた餅。

あげ・もの【揚(げ)物】アゲモノ 名 油で揚げた食品の総称。

あげ・や【揚(げ)屋】アゲヤ 名 遊女などを呼んで遊ぶ家。

あけらかん・と【あけらかん】副 →あっけらかんと。

あ・ける【明ける】アケル 自下一 (ケ下一段) ①朝になる。「夜が―ける」②新しい年になる。「年が―ける」対12暮れる。③一定の期間が過ぎる。期限・任期が満了になる。「年季が―ける」文語 あ・く 下二

あ・ける【開ける】アケル 他下一 (ケ下一段) ①ひらく。「ふたを―ける」②閉じる。③貫いてすきまをつくる。「穴水路を―ける」④空ける。③すきまをつくる。「糊代(のしろ)(席・道)を―ける」対②ふさぐ。④【空ける】からにする。「容器や中身をからにする。「さかずきを―ける」「一升―ける」対満たす。④留守にする。「家を―ける」「一去する。「城(店)を―ける」⑤使わないままにする。「手(からだ)を―ける」「土曜の晩を―ける」「ページを―ける」文語 あ・く 下二

あ・げる【上げる】アゲル 他下一 (ゲ下一段) ①位置・階級などを上方に高める。「頭を―げる」(係長に―げる)②程度を高くする。「程度をよくする。「能率を―げる」「品質を―げる」「腕前(手)を―げる」「賃金を―げる」③供える。「お供物(そなえもの)を―げる」④はめる。おだてる。「人を―げたり下げたりする」⑤送り入れる。「学校へ(奉公に)―げる」対15下げる。⑥下にあるものを取り去る。「寝床(畳)を―げる」⑦(客などを)通す。「座敷に―げる」⑧(芸者などを)呼ぶ。招く。「おおぜいを―げて騒ぐ」⑨(音声を)高く出す。「喚声を―げる」⑩もてはやす。「吐く。「食べた物を―げる」⑪得る。「収益・得点・好成績を―げる」⑫終える。完成させる。「仕事を―げる」「安く―げる」⑬独立動詞の謙譲語で、「やる」「与える」の意。差し上げる。お贈りする。お渡しする。「手紙を―げる」「お礼に―げよう」「確かに―げました」「おかわりを―げましょうか」「おいただく。「聞く」